



長野県建築士会

佐久支部

らくしよ

佐久の札所

第10番札所 大昌寺

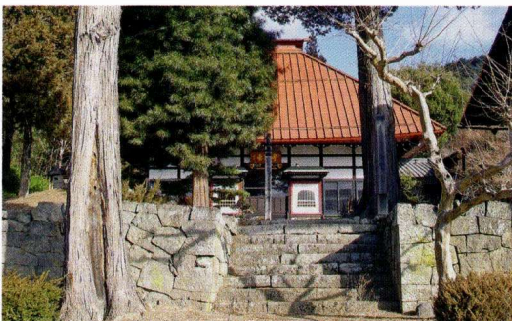
佐久市常和2441番地



永平寺並びに総持寺を本山とする曹洞宗で、本尊は聖観世音菩薩 木彫座像で座高1m余。

寛永二年（1625年）東光寺旧跡に小庵が建てられ、大昌寺と改称された。

武田軍による戦災等三度の火災に堂宇は全焼したが、観音様は灰中であって惶々たりと古文書にあり、まれに見る貴重な佛像で古くより全国各地から多くの信者が参拝に訪れている。



もくじ

支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
ウッドクラフト	4～7
新年講演会	8
コロナ禍に思う	9
委員会活動について	10～12
賛助会員の紹介	13
4月からのエネルギー法	15

ご挨拶

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部 支部長
白田 幸夫



陽春の候、会員の皆様におかれましては長引くコロナ禍ではありますがご健勝のことと存じます。

日頃は支部の事業に対しご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。昨年は2月の後半から本会より活動の自粛要請がありほとんどの事業が中止或いは延期となり支部の会報「ちくま」も通常の時期に発行が出来ず例年ですと1月の予定が4月となってしまいました。書面での決議、リモートでの会議など、会員同士が直接顔を合わせて意思の疎通ができないことにより気持ちが切れないようモチベーションを維持することに努力を要しました。特に飲食を伴う懇親会が皆無となったことはお酒をこよなく愛する者にとっては正に苦行でした。1年前はこれ程長引くとは思わず年内には終息するのでは？と漠然と考えていましたが今の状況を見ればいわゆる「新たな生活様式」が「普通の生活様式」となってマスク姿が当たり前の社会が暫く続くことを覚悟しなければならないと思います。有効なワクチン接種により1日も早く集団免疫を獲得し新型コロナウイルスがただの風邪となることを祈るばかりです。しかしながらその時を待って漫然と自粛をしている訳にも行きません。2月に実施したリモート版ウッドクラフトのようにコロナを逆手にとったイベントは今後の活動の参考になるのではないのでしょうか？コロナをできない理由にしないで可能性を考えることは大切です。ここで以前新年講演会にお招きしたインターナショナルスクール I S A K 代表理事の小林

りんさんが講演の中で紹介されたフランスの哲学者アランの言葉が記憶に残ったのであらためて紹介します。「悲観主義は気分属し、楽観主義は意思に属する成り行きに任せる人間はみなふさぎ込んでいるものだ。矛盾だらけの世間を生き抜こうと思えば幸福になろうという強い意志が必要である。生まれつきの楽観主義者はいない。」気分が沈みがちな今こそこの言葉の意味が深く心に響きます。

気が付けば2期目の任期も後わずかとなりましたがここまで会員の皆様に支えられながら何とか務めることが出来ました。思えば三役の経験のない自分が支部のかじ取りを任せられ支部の事、本会との関係など全て手探り状態で運営をしてきました。幸運なことに就任した年に青年女性委員会の地域実践活動「風穴のある場所の価値」が全国大会で最優秀賞を受賞し、これにより佐久支部が出場大会3連覇という偉業を成し遂げ盛大な報告会（祝賀会）を開催することが出来ました。これが弾みとなり翌年の支部合併30周年記念のイベントに結び付いたと言えます。「会員の手引き」は個人情報保護の高い壁がありましたが皆様のご理解があって発行することが出来ました。次期役員となられる皆様には課題山積の建築士会のかじ取りを宜しくお願い致します。ご検討を心よりお祈りします。結びに、会員の皆様に4年間の感謝とお礼を申し上げ佐久支部が益々発展することを祈念しご挨拶と致します。

会報の発刊によせて

長野県佐久建設事務所 建築課長

中村 均



建築士会佐久支部の会報の発刊にあたりご挨拶申し上げます。

令和2年度を一言で申し上げればまさに「コロナ禍」の年であったと思います。

昨年4月は、新型コロナウイルス感染症が広がり、建築士会の支部協議会も例年どおりの開催とならず、結局1年間皆様に直接ご挨拶することもできませんでした。

何を企画するにも必ずコロナがついてまわり、例年通りできることがなかったように思います。建築課としても、例年2月に行っていた被災建築物応急危険度判定士養成講習会を5月19日に延期したほか、これまで行っていた会議等を書面開催に切り替えるなどの影響を受けました。世の中「3密を避ける」、「マスクの着用」、「手指の消毒」など生活習慣は1年前とでは大きく変わり、仕事や会議のあり方などもリモートの導入など大きく変わりました。これは例え、コロナが治まってもコロナ以前と同じ状況に戻ることはもうないのではないかと考えます。

そのような状況は建築士会も同様であり、令和2年度役員の皆様のご努力には頭が下がる思いです。対応を検討しようにも思うように集まれない中、協議会の開催方法や各行事のあり方など前例の無いことを一からご検討いただき1年間の実績を作りあげていただきました。この実績は、今後における新たな前例となり建築士会佐久支部の新たな在り方に大きく影響を与えるものと思います。

さて、佐久地域の状況ですが、建築確認の状況を見ると商業建築や工場などが減少している中、住宅が大変伸びています。令和2年の暦年での新設住宅着工件数では、全国が対前年9.9%の減、全県が6.9%の減となる中、佐久地域は1780戸23.1%の増となりました。これは、過去5年の平均と比べても16.4%の増となるもので、佐久地域の状況が他地域と大きく異なることを表しています。市郡別では、北佐久郡(33.9%)を筆頭に小諸市(22.7%)・佐久市(16.8%)で増加している一方南佐久郡(▲5.1%)で減少しています。また、利用関係別では、持家は減少(▲2.6%)しているものの、貸家(99.2%)・給与住宅(2350%)・分譲住宅(28%)は増加しています。別荘は持家にカウントされますが、軽井沢町がある北佐久郡(2.6%)では増加していますが、小諸市(▲5.4%)・佐久市(▲6.9%)・南佐久郡(▲1.7%)では減少となっています。分譲住宅についても、特に北佐久郡が対前年44%の増となっており、特に軽井沢町で増加していることは、コロナが大きく影響したのだと個人的には考えています。(軽井沢の別荘の建築工事届を見ると稀に坪単価170万円を超え、何億円という別荘が見受けられますが世の中お金はあるところにはあるのだと実感させられます。)

最後に、県の建築・住宅行政に一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いするとともに、建築士会佐久支部の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご活躍を御祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

「リモート版 親子でつくろう！ ウッドクラフト」開催について

地域貢献委員会 委員長 **星野 武光**

コロナ禍でも支部活動はできるっ！をモットーに、毎年の支部地域貢献であるウッドクラフトを今年はZ o o mを使いリモートに挑戦しました。7月の第一回委員会から始めて会議を重ね、12月19日のデモンストレーションを開催、そして、1月中旬から参加募集開始、2月20日(土)イオン佐久平で材料配布・リモート接続練習を経て、翌週の27日(土)に本番を迎えました。

当日は、3回のリモート作成を実施、1・2回目がイスの作成で3回目が今回初の机の作成。

- 1回目 9時50分に開始、7組の小学低学年の親子が講師と一緒に同時に作成。約75分間。
- 2回目 12時50分から開始、8組の小学高学年の親子が参加。約60分。
- 3回目 14時50分から開始、8組の小学生と親子が参加。約70分。完成後に講師、スタッフで写真撮影。

コロナ禍で初めてのことに臨むにあたり、当初から4班に作業内容を分担して少人数での会議に対応出来るよう進めました。その各班の作業と感想をまとめました。

A班 【統括・リモート構築、機材選定・ビデオ撮影】

〈班長・統括、全体スケジュール、武道館会場打合せ〉

星野 武光 (委員長)

「会議を重ね、問題点や予測事項を出し合いながら、一つ一つ解決、修正して『完成品を抱きかかえて一緒に！全員で写真撮影を！』目標に企画を進め実施でき、最高でした。」

〈情報委員・リモート構築、ネット申込み構築

(QRコード等)〉 小林夕起男

「星野委員長から『今年のウッドクラフトはリモートで！』と話を伺ったとき、『昨年までのウッドクラフトでは直接補助をしてでも作成に手間取ることがあるのに、直接の補助無しで、ましてZ o o m会議をしながら完成まで出来るのだろうか。』と不安になりました。事前準備はリモートによるZ o o m接続試験、インターネット受付準備。作成指導の方も組み立て手



順を今までと変えるなど、初めてのことが多く大変でしたが、終わってみれば参加者全員が時間内に見事に完成！ ネット社会で育った子供たちは違いますね。画面の向こうで親よりも子供の方がタブレット操作を進んで行っていたようです。最後に参加者全員で揃って完成品を掲げて記念撮影を行った時の子供たちの笑顔を見て将来を頼もしくも感じました。」

〈地域まちづくり委員・リモート構築、

カメラ (講師ビデオ撮影用)〉 新津 輝秋

「参加者によって、リモート慣れしている方とそうでない方がいるであろうと想定されたので、材料配布の際に参加者の方にZ o o mの接続の練習を行いました。そのかきもあって、当日は3回のリモートでのウッドクラフトがスムーズに行えたかと思います。接続環境に応じて (PC・スマホ・タブレット等) 設定方法が微妙に異なるため、事前に接続の練習を主催者、参加者ともに行っておいたことが今回スムーズに開催できたポイントかと思いました。また、当日の会場選定においても、館内のネットワーク環境が十分整っているか、音響・映像の連携なども加味しての会場選定がキモになってくるかと感じました。そういった点では、今回の会場 (武道場 会議室) は設備もネットワーク環境も整っていたので、星野委員長の会場選定の目に狂いはなかったと感じました。」

B班 【新作の机設計、作業手順用の手描き図、
作成・材料加工と作業手順ごとのラッピング】

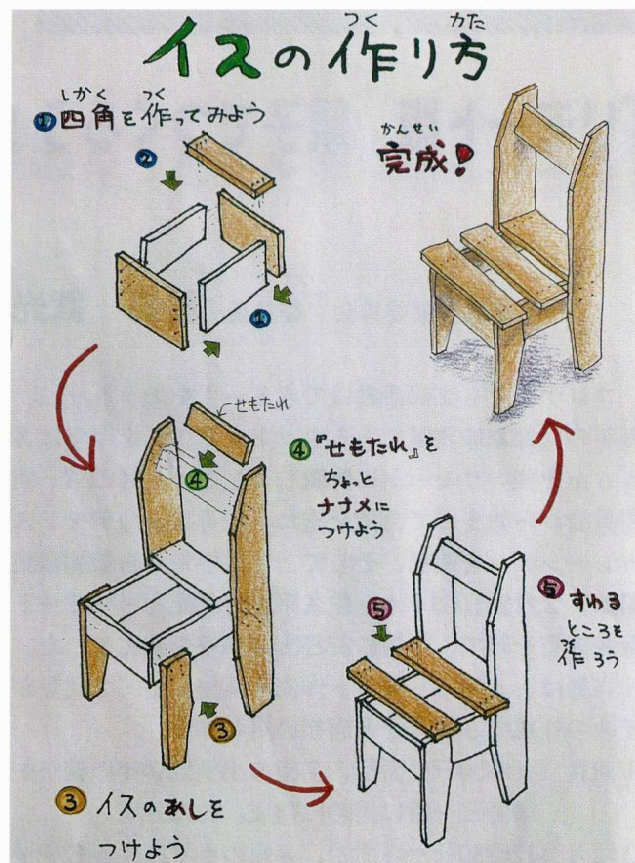
〈班長・新作の机の設計、材料加工等、
イオン会場打合せ（コロナ対策）〉

山田 功（副委員長）

「製作品は前回と同様イス製作と今回のリモート版の為に、特別にイスとセットになる机の作成を行う事になりました。椅子のサイズが子供用と言うことで、まずは机の高さと幅を決めるわけですが、私の周りにはいにく子供がいなかったため、以前作成したイスに座りながら、この程度でどうかを想像しながら、図面を作成しました。試作品を作成し自分で座ってみた時は、少しサイズの不安は有りましたが、今回は「一発勝負！」で進める事としました。材料は、国産の杉の貫板を使い、材木屋さんに節の少ないものと無理を言って納めてもらいました。本番、スクリーンを見ながら、会話をしながらの製作は、少し気持ちが上がってしまっていて、慌ててしまいました。けれど、子供たち真剣な作業の姿、楽しんでいる様子を見て本当に楽しく、また続けて行きたいと思いました。」

〈副支部長・イス、机の材料加工、
作業手順ごとのラッピング〉 土屋 龍男

「例年、組立材料の加工を担当しています。今回は、昨年までのようにイオンの会場で建築士会のメンバーが親子の参加者に直接手ほどきをしながら組み立てを進めるスタイルではありませんでした。リモートで親子がそれぞれの家庭で画面を見ながら指導を受けて、椅子や机を製作しなければならないのです。したがって、加工をする上で釘の下穴位置の精度がこれまで以上に大切だと思い、特段の神経を使い穴開けしました。本番では特にトラブルもなく、参加した親子の皆さんが無事に組み立てを終えたのを見てほっと胸を撫で下ろしました。」



〈イス作成用手描き図の作成・イオン材料配布〉

小林由美子

「イスのイラスト版設計図を担当しました。どうすれば、子供たちにわかり易いか？を考えながら描きました。子供たちに本当にわかったか、聞いてみたかったです。Zoom版ウッドクラフトに参加できて良かったです。」

C班 【PR広報・チラシ作成・参加者の募集の仕方、
受付、リモート練習・参加者への連絡】

〈班長・PR広報、チラシ、募集、材料配布

（コロナ対策） 小泉 正樹（副委員長）

「今回リモートでの開催を委員長より提案された時は、実際に実現出来るのか半信半疑でした。」

いくつか小さな問題点はあったものの、各コース椅子や机が出来上がった時の参加者のお子さんや親御さんの嬉しそうな表情を目にし、やはりコロナ禍での開催は正解だったと実感しました。

また未だ不慣れなZoomを利用しての開催と云う事もあり、担当委員会を超えてリモートシステム構築等ご協力頂いた皆さんには大変感謝致します。今回残念ながら都合が付かなかった会員の皆さんにも、次回開催時には是非ご参加頂ければと思います。」



〈PRチラシ制作、材料配布の受付〉 菊池 広美

「材料渡しの受付について：コロナ対策に対し参加者皆さん協力的でした。会場がわかりにくかったとのことのお話が2名ほどから聞かれましたので、申込のHP内などにイオン内での開催場所を明示したSHOP MAPにリンクできるようにしておけば良かったかもしれないと感じました。」

〈材料配布の受付、本番当日の受付・

リモート参加者の確認等〉 高橋 美貴

「リモートで行うウッドクラフト微力ながらお手伝いさせて頂きました。デモの時には会場で参加者側を経験し、講師役の優しい親切な教え方に感心致しました。材料配布時には期待に目を輝かせて会場に足を運んで下さいました。多くの子供達の「作りたい」想いに応える為、多少流れ作業的になってしまいましたが、当日家庭で親子仲良く作業をしている姿に、こんな方法も有りだなあと感じました。」

〈事務局・PR広報、参加者募集受付・各種連絡〉

萩原佳代子

「昨年からはホームページ上での受付をしていますが、システム構築をしてくれた情報広報委員会の小林さんは大変だったかと思います。」

申込される方にとっては、こちらの業務時間を気にせず、自分の空いた時間に申込できるので良いと思います。夜8時以降や昼休みといった時間に申し込まれる方が多かったです。また、参加される方とメールでやり取りをしていて、『当日楽しみにしています!』等の一言が添えられていて、嬉しく思いました。」

D班 【リモート講師、司会者等の選定、練習・
タイムスケジュール、シナリオ（台本）作成】

〈班長・リモート講師、司会者の統括、
タイムスケジュール等〉 緑川 博行（副委員長）

「今回は初のリモート開催です、状況把握や意図が伝わるかを課題にタイムスケジュールとシナリオ（台本）を考えました。何度か開催された会議では遅い子に合せて、全員の完成を目指すことで一致しました。本番当日は皆さんのご協力のお陰で上手いき子供たちも喜んでいたので大変良かったと思います。コロナ禍でも何かできる!と思う星野委員長のチャレンジ精神には感嘆いたします。」

〈デモ・本番当日 司会担当〉 荒木 貴志

「コロナの感染症予防を機に、様々なことがオンライン化している。そんな中で開催したオンラインによるウッドクラフトは、実際に手を携えることができないにしても、成功裏に収まったと思います。たくさんのお子様たちが、できた! という笑顔と大きな丸を私たちに見せながら楽しそうに作っている姿が記憶に残る。初めての試みで、本当にうまくいくのか心配ではあったが、今後の建築士会の活動におおきな励みになったと感じている。」





〈デモ・本番当日（一回目低学年） 講師担当〉

佐藤 茂暁

「リモートで？正直不安でしたが、大成功！私は当日の講師役で参加しました。こんな時だからこそリモートではありましたが、多くの人と何かを一緒にやる事の大事さと楽しさがよくわかりました。そして画面の向こうで頑張る参加者の皆様からは僕は元気を貰いました。準備から当日まで皆様お疲れ様でした。」

〈情報広報委員会 委員長〉 両川 正

昨年から続く未曾有のコロナ禍で、世界中は萎縮一辺倒の風の中、建築士会佐久支部・地域貢献委員と会員から動き出した、工夫をすれば新たな展開に動き出せるのではないかとの中で準備が進められ、開催まで漕ぎ着けたウッドクラフトでした。

初めての試みで行事の全てが諸手を挙げ滞りなく進んだとは言えませんが、共有した時間を通して感じられた、開催した側・参加して頂いた皆様の、笑顔で満たされた中で終始進行されたひとときでした。

人間の知恵を絞り向かって行けば、ウイルスの蔓延を越して、人類が進んで行けると思わせる好事例として、リモート版「ウッドクラフト」を閉じる事が出来



ました。ご協力頂いた皆様・ご参加して頂いた皆様、有難うございました。

地域貢献やボランティア活動には踏み出しにくいと思いますが、会員の皆様の中で、ご自身の住んでいる地区・地域に関りを持っていたいと思っている方は、ご協力頂ければ幸いです。事務局までご連絡をお待ちしております。



令和2年度 建築士会佐久支部新春講演 須田慎一郎氏を迎え

建築士会佐久支部 箕輪 義則

例年2月に開催している、恒例の建築士会佐久支部の新年講演会ですが、本年度はコロナ禍の3月5日に新春講演会としておよそ80名の参加者を迎え開催されました。

十分な感染予防対策を取り講演後の懇親会を取止めの開催となりました。

講師にお迎えした須田慎一郎氏は皆さんもご存じの通り、経済ジャーナリストとして多くのテレビ、ラジオに出演してお顔をご存じの方も多いかと思ひます、その知名度からか例年の講演会参加者は会員がほとんどでしたが、今年は一般の方も多数参加して頂きました、これは一つの大きな成果であったと思ひます。

さて、講演の内容ですが「withコロナ時代を生きに抜く知恵」という演題でした。

講演内容はやはり経済関係がベースの話となりました。

経済の動きは政治と大きく連動している、コロナに対する政治の対応で経済の動きが大きく変わってくる、今起きていることをしっかりとみることによって将来をどうするかを見極めることが大切である。

又GDP（国内総生産）が増になると景気が良くなり、減になると景気が悪くなると、こちら辺は解るような気はするのですが、ではGDPがどのようなカテゴリーでできているのかなんて事は私にはまったくわかりませんが、GDPは大きく分けて

1. 個人消費
 2. 企業による消費(設備投資等)
 3. 公的セクター
 4. 輸出による消費
- なのだそうです。

今、コロナ禍で 1、2、4減になっていますが3の公的セクターいわゆる国、県、地方自治体が大きくお金を使っている事で今の日本の経済は持ちこたえているのだとか… ふんふんと聞けばわかりでしたが。

コロナによる医療崩壊も経済を悪化させる一因であるとの話もありました。

そして2021年は政治の年になるだろうと、今年10月までには衆議院選挙があります、現政権がどのような状況下で選挙を行うか、東京オリンピックの成功させることも大きなカギになるであろうと、そして大型景気対策を打ち出せるか。

最後には株価等の話もしていただきましたが、こ

ら辺は私には少し難しく、理解するにはもう少し経済新聞をしっかりと読む必要があると感じました。

世の中の動きを見るときには経済だけでなく政治やその他多くの事例を「観(み)」変化が起きてもそれに対応できる事が大事、と話していらっしやいました。

普段聞くことのない様な講演でしたが、政治、経済に係わらず自分の生活の中でも多くの事象をしっかりと観察し、それに対応できる心構えを持てるようにしたいと思ひました。

良い講演を開催して頂き感謝し来年度も期待申し上げ感想といたします。



コロナ禍に思う

出澤 潔

一昨年末、中国で発症した新型コロナウイルスは年を明けてパンデミックとなり、日本国内でも中国からの帰国者や東南アジアクルーズ客船の乗客乗員の感染が確認され、全国に感染の波が拡がりました。

新型コロナの感染予防の基本は、人の流れを止め人と人との接触を避けることにあり、私達の生活はそうしたことに気を遣うようになりました。その結果、街から人の影が消え様々なイベントが中止され人々の交流がなくなりました。人と人との接触を避ける感染予防策は私達の生活に大きな影響を与え、私達の生活の姿を変えようとしています。

一例をあげれば、コンピューターを介してのテレワーク・オンライン会議・オンライン授業などなど…。私にはこうした経験がなく、このような意思伝達の仕組みに溶け込めない自分が居ます。そして、肩を叩き合い眼を見合っただけの話し合いからお互いの心が伝わるのではないのかと患ってしまうのです。一方、こうした意思伝達の仕組みは時間的経済性や伝達の確実性など、これからの時代に向けての生活の在り方なのかなとも患ってしまうのです。

出来るだけ家に籠り社会の仕組みから離れ、マスクをつけた生活が長期になるに従い、経済の破綻が各所に生じ国は感染防止策と社会経済の立て直し策の両立を図らなければならない状況を迎えています。

先日の新聞で『戻らぬ祭り 廃業の露店も』という見出しを見ました。新型コロナが人と人を遠ざけ、街から活気を奪っているのでしょう。街の祭りは地域社会で育まれた伝統的な行事であり、人々の心を一つにする大切な社会システムです。

新型コロナは人々の心理的分断や社会的分断を生み、社会の仕組みを変えようとしています。

環境ジャーナリストの石弘之氏は『コロナ禍から学んだ新しい考え方』として「経済の停滞という負の側面がある一方で、人々が新しい考え方や生活様式を受け入れていくなかで、古い習慣を捨てて新しい社会を迎え入れようとする期待感もある」と述べています。

歴史的には様々な感染症が世界を襲い社会の仕組みを変えています。

14世紀に拡大したペストは当時のヨーロッパ人口の

ほぼ半数に当たる人が亡くなったと推計され農民社会に大きな影響を及ぼし政治的・社会的影響が多岐に渡ったと伝えられています。また、19世紀のコレラの世界的感染は、劣悪な衛生環境下にあったヨーロッパの大都市に上下水道の整備や道路拡幅などを求め、近代的な都市工学・公衆衛生学などの分野が生まれました。

人々を襲った感染症が人々に新しい価値観を与え新しい文化を生むなど、感染症が時代の転換点となったことを理解しつつ、今、身近に起きている人と物との新しい関係や人々の生活の変化が私達に何を与え私達は何を得ようとしているのかを考えてしまいます。

そんな時、香山壽夫先生の支部新年講演会のお話を思い出しました。先生は私達に「建築は人と人の繋がりである」と教えて下さいました。そして『言葉としての建築』で「人と人を繋ぎ、時と時を繋ぐものとして建築は在り人はそういう建築を作ってきたということに他ならない。それが建築のなすべき働きであり、人が建築に求めることだ。建築が、人と人の繋がり、すなわち地域や共同体、そして今と昔の繋がり、すなわち伝統や歴史を保ち強めていく大きな働きをしていくことに、改めて自覚せざるを得ない」と述べておられます。

コロナが終息して人々の生活が平穏な日常に戻った時、私達の生活から人と人との繋がりが薄くなり、人と物との関係が変わり、人の生活の姿が変わっていたとしたら私達は建築とどう向き合ったらよいのでしょうか。

新型コロナは私にこれからの私達の生活や建築について考える機会を与えてくれました。

21年前、私達は新しい世紀を目前にして大きな夢と希望を抱いていたように思います。新世紀を迎えて既に20年。新世紀は私達にどんな夢と希望を与えているのでしょうか。自然環境の影響による度重なる自然災害、今回の新型コロナウイルス感染拡大、それらは人々の生活や価値観に変化を与え、社会システムに影響を与えようとしています。

私達は今、歴史の大きな波の中にいます。様々な事象への私達の対応は、歴史にしっかりと記録され後世の人々に伝えられることでしょう。

春を迎えようとしている時、感染の波は小さくなりワクチン接種の準備が進んでいます。

一日も早い感染の終息を願い、平穏な日常が戻ることを願いつつ……。

令和3年度

総務企画委員会活動

総務企画委員長 片井 英治

まずはじめに、本年度も至らぬ総務企画委員長に皆様のご協力を頂きましたことをこの場で御礼させていただきます。

さて一年を振り返りますと、新型コロナウイルスの脅威の中、各ゴルフ大会や研修旅行、会長と語る会など様々な行事が中止となっていました。そんな難しい状況下でしたが、Zoomを利用した委員会会議など新しい試みが出来たことで、なんとか少しでも活動がおこなえました。以下本年度に行えた活動のまとめです。

- ・規約の一部改正
- ・緊急時災害連絡網の整理及び役場への配布
- ・緊急時災害連絡網を利用した、訓練
- ・新春講演会の開催
など

新年度事業は、例年通り行えるように願いつつ引き続き、会員の福利厚生・新年後援会の実施・応急危険度判定士の名簿の整理・協定を結んだ市町村との相互連絡・防災マップの見直し作業などを進めていく予定です。

また、新年度も皆さまの知恵をお借りしながら、会員の方々のお力になるように企画、行動していくように致しますので、昨年度同様皆さまには、何とぞ、厚いご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



入場前に健康状態を確認（体温測定、顔色観察）、手指の消毒／マスクの着用。離れて見学

令和3年度

新型コロナウイルス禍を泳いで渡る

教育事業委員長 大町 栄一

日本に新型コロナウイルス感染者が出たことを伝えるニュースが発信されてから1年が過ぎました。今年1月には2度目の緊急事態宣言が発令され、この原稿を書いている2月中旬における累計感染者数は42万人、死亡者が7千人以上となっています。決して人ごとでは無く、身近な人も感染してしまいました。ワクチンの接種も始まりましたが、いつ収束するか明確な見通しがたらずに混沌とした状況が続いています。

このようなコロナ禍において昨年、教育事業委員会では委員会を数回Web会議にて開催し、当初予定していた実務講習会は全て中止とし、見学会を1回だけですが感染予防対策を実践して11月になんとか開催することが出来ました。酒やコンサートだって生が良いんです\(^_^)/、1カ所目の県立武道館では唐松集成材を使ったハイブリッド構造と仕上げ材としての木材の美しさに感動し、柔道場の畳の柔らかさを体感し、1畳6万円という価格に驚かされました。

2カ所目の佐久平クリーンセンターでは国内初のレジャー施設（スキー場）に隣接した最新のごみ処理施設としての環境に配慮した機能とデザインについて普段は見る事が出来ない工場内部まで立ち入り、防臭区画のノウハウや5,500世帯の電力をまかなえる焼却エネルギーの利用方法などについて見学させていただきました。久々に参加者の元気な顔を愛でるとともに、画面には映しきれない建築物のライブ感を満喫しました。

来る令和3年度もたぶん新型コロナウイルスのニュースに翻弄される事でしょう。気を緩めればまたコロナが襲いかかってきます。でも立ち止まっているわけには行かない。様々な感染予防対策を講じながらとなるでしょうが「不特定な人との直接接触を避け、計画的に外出移動を行い、密集となる場所を回避し、離隔距離が十分に確保出来る場所を選び、健康状態をチェックし、マスクを着用し、アルコール消毒を徹底して行う等々」。新型コロナウイルス禍をみんなで協力し合って、あえぎながらも希望に向かって泳いで行きましょう。今年は是非、人を集めての実務講習会や見学会を開催したいものです。昨年度出来なかった実務講習会を含めて、新たな時代に即した講習会や見学会を教育事業委員会全員で考えて行きたいと思います。皆さんからも何かご希望があれば、教育事業委員会員へ一報いただければ幸いです。

////// 令和3年度

「年度事業報告」・「防災マップ・作成について」

地域貢献委員会委員長 星野 武光

1、アダプト事業「佐久南インター景観をつくる会」

「春の花植え・草取り」 6月13日(土) 雨天決行
草刈り機により作業、草回収、運搬処分
花植え：建築士会のマスのみ

「秋の片付け・草取り」 10月31日(土)
草刈り機により作業、草回収、運搬処分
※コロナによる緊急事態宣言もあり泉小学校6年生は、不参加。

2、「リモート版 親子でつくろう！」

ウッドクラフト」事業

「P4～7に記事があります。」

3、「東信ブロック交流」事業

今年度、昨年の活動内容を整理し経過報告書を作成。
埴科、上小、佐久の3支部、地元区（一般の方）、
北中南信ブロック幹事、本会理事へ
合計1000部 印刷配布。

※地域活動はコロナの影響により自粛しています。

4、「防災マップ 11市町村（総務委員会より委託）」

事業

本年度：「新規追加 川上村3カ所作成」

「防災マップ・作成について」

担当副委員長 小泉 正樹

防災担当のここ数年の主な活動として、各市町村の避難施設位置をまとめた「防災マップ」の作成があります。
当建築士会佐久支部と佐久地域各市町村との間で取り交わした災害時における避難施設応急危険度判定等協定が、有事の際に円滑に実施出来るよう作成している物です。

地元に大地震等の災害が発生し、利用すべき避難所が安全であるか確認する時には、実際に活動するのは、主に被害を免れた他地域に住む建築士等応急危険度判定士の皆さんです。その方々が見知らぬ土地で混乱の中でも、目的の避難所に一刻も早く到着する為の案内図です。

そんな「防災マップ」も平成30年度までに北佐久地域を整備し、昨年3月までに残る南佐久地域の作成を進め、今年度中に佐久地域全ての市町村が完成予定です。各市町村の「防災マップ」作成にあたっては、避難施設の情報については各自治体担当者より提供されますが、作成の為に施設写真撮影、個別の各施設の案内図作成と云った膨大な作業には、担当である地域貢献委員会はもちろん、多くの建築士会の方々のご協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

既に個別の市町村より、避難施設の追加による訂正依頼も届いており、今後は随時出来上がった「防災マップ」のメンテナンス作業を進めていきますが、また会員の皆さんにご協力をお願いをする機会が出てくるかもしれません。その際は作成の主旨をご理解頂き、作業へのご参加宜しくお願い致します。

////// 令和3年度

令和2年度委員会活動を振り返る

地域まちづくり委員長 小泉 仁

地域まちづくり委員会の活動内容は主に、行政機関とのパイプ役を担い、連携していくことにありますが新型コロナウイルスの影響で今年の2月以降、委員長・行政間のヒアリング等は何度か行ってきましたが、会議や意見交換会等は行えませんでした。

継続事業で行っております、佐久穂町の新築助成金補助に関する委託業務は上半期の物件数が伸び悩んだ分、昨年度に比べると半数程度にとどまりましたが会員の皆様方には業務をこなしていただきました。来年度も業務依頼をお願いした際には快くお引き受けいただくようお願い申し上げます。

又、今年度の新たな試みとしてインスペクション（既存住宅状況調査）の周知・実績をあげていくために、一般のお施主様にわかりやすく又、不動産関係者・行政担当者が説明しやすい案内チラシを今年度中の完成・来年度頭の配布に向けて製作中です。

来年度は新型コロナウイルスの状況を見ながら、継続事業とともに行政との連携を積極的にして建築士が行政に向けてどう携わっていけるか考えながら何か新しい試みができればと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

「既存住宅状況調査技術者講習制度の概要」は、アドレスへ

<https://www.mlit.go.jp/common/001171266.pdf>

令和3年度

佐久支部のホームページ

情報広報委員長 両川 正

平素は、情報広報委員会の活動にご協力を頂き、御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、コロナ禍により時代的な激動の中、創意・工夫を重ねお仕事に取り組まれている事と思います。

さて、人口減少という日本全体が抱えている問題でもあります。建築士会も兼ねてよりの懸案事項である、会員減少と、それに伴い長野県建築士会は、予算組が難しい状況に差し掛かって来ております。そんな中、佐久支部には活発に活動しているものの、残念ながら台所事情は同じ状況となっております。

私も委員長にご指名を受けて3年目、当初からホームページのリニューアルにとり組みたいと思いつつも、時間ばかりが流れてしまいました。その間にも上記の件も悪化の一途でございます。

そこで、今年こそはホームページを全面的に新しく出来ればと思います。

長野県建築士会が公益社団法人に移行した事もあり、佐久支部のホームページは一般ユーザー向けに開かれたもの出来ればと考えております。そして、会員の皆様のお仕事のプラスになる様に、皆様の活動状況が日々わかる様な、有意義な情報を発信できる活発なページを作り、一般ユーザーからのアクセスが多くなる様にし、情報発信をしている会員と一般ユーザーの結び付けができ、会員の仕事へのプラスとなればと考え、またはページのアクセス数が多くなれば、それによる広告収入も期待できると思います。

建築士会の健全な運営と、会員の皆様への活動に障害のない予算組が継続でき、お仕事にプラスになる様なホームページに出来ればと願います。

ホームページの作成に興味がある会員の皆様、委員会活動に参加してみたい会員の方、事務局へのご連絡をお待ちしております。



令和3年度

青年女性委員会について

青年女性委員長 鎌田賢太郎

青年女性委員長の任期も残り数か月となりました、鎌田賢太郎です。

コロナ禍により、本会も支部も多くの事業が中止となり、活動が停滞した状況にあります。本来であれば今頃は、2021年6月に開催の予定で準備を進めていた「関ブロ大会in長野」の準備に追われていた時期ではありますが、2022年に延期となり、実行委員会もコロナ禍により完全に停止し、準備内容も白紙となってしまいました。2021年6月19日には、昨年延期となった「関ブロ大会in茨城」がリモート開催されますので、この開催方法を踏まえて長野大会の準備が再開する状況です。

一方の支部活動の主軸である「御代田フットパス」事業においては、地域への落とし込みを考えつつ、イベントの開催できる時期を待ちながら、行政との絡みを検討しております。今年の1月にはTV取材も入り、御代田フットパスも県下全域へ周知する機会を得ることができました。

コースのメンテナンスは継続して進めており、一般の方の利用も継続しています。御代田町のまちづくりツールとなるように、行政を交えた更なる発展を計りたいと考えています。

またコロナ禍の副産物として、委員会開催や本会の集いもリモートで行う流れになりました。若手委員においては、大変スムーズにリモート会議を取り入れることができ、コロナ禍終息後もリモートという手法が、新しい活動のツールとなり得ると感じています。

5月の任期満了により、現在の事業は次期委員長へ委ねる形となりますが、青年女性委員会の活動と人材発掘には、今後も微力ながらも尽力したいと考えております。引き続き佐久支部の皆様のご支援ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

2021年1月9日放送/いいね!信州スゴザカラ



https://www.youtube.com/watch?v=r5EB6f-KxsQ&feature=emb_logo

※QRコードよりスマホでもご覧いただけます/16分50秒〜御代田フットパス

賛助会員の紹介

高田塗装

長野県建築士会佐久支部会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成8年に創業し今年25周年を迎えます。

多くの方々に支えられ、今日まで続けてこられた事にとっても感謝しております。

弊社は戸建て住宅、アパート、マンション、ビル等の塗装の他、幼稚園・保育園・小中学校・高校・鋼構造物塗装などの公共事業にも携わっております。

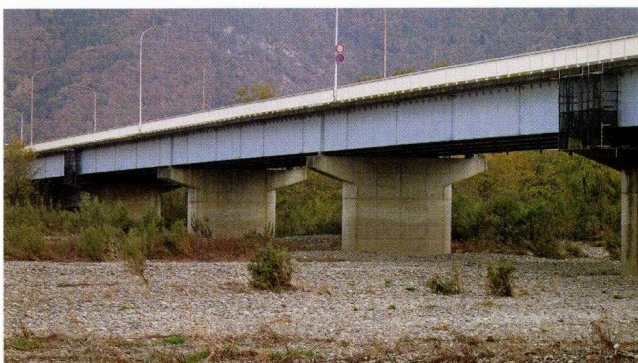
お客様のお困り事やご要望にお応えするために材料選定から適切な工法のご提案を心がけております。

また、塗装技術に対しましては、全社員が技術向上を目指し「一級塗装技能士」をはじめ多くの資格を取得しております。

昨今、地球環境は刻々と変化し、地球温暖化をはじめとして様々な自然災害が深刻化しています。

弊社は長野県産業廃棄物3R実践協定を締結し、排出抑制、リサイクル、減量化のための取組を従業員に徹底教育し、地域社会に貢献でき未来を創造する企業になることを目指します。

最後となりましたが、貴会の皆様の益々のご繁栄ご健勝を心よりご祈念申し上げます。



賛助会員の紹介

長野コーエイ株式会社 代表取締役 花里 宏治

長野県建築士会佐久支部会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび賛助会員の紹介という機会を頂戴いたしましたので、弊社の紹介をさせていただきます。

弊社長野コーエイ株式会社は1982年に設立し、今年で創業40年となる主に工場全般、住宅・別荘の新築・改修、店舗全般等の施工に携わる地域に根差した総合建設業者です。

総合建設業者として40年の間続けてこられたことは地域の皆様、お付き合いのある皆様からの温かいご支援、ご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

小規模な会社ではありますが、少数であることをメリットと考え、建築の設計・施工はもちろん、お客様の様々なご相談・ご依頼にできる限り誠意をもって対応させて頂いております。

総合建設業という事業を通じて、お客様に喜んでいただき、地域社会さらには広義の社会に貢献できるよう努力してまいります。

最後に、長野県建築士会佐久支部会員皆様の益々のご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。

主な事業内容

住宅、別荘及び貸家設計・施工

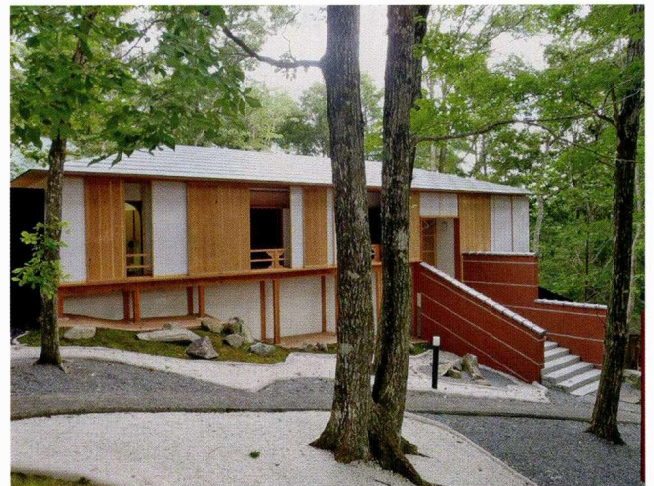
オフィスビル及び貸店舗設計・施工

工場設計・施工

リフォーム、リノベーション全般

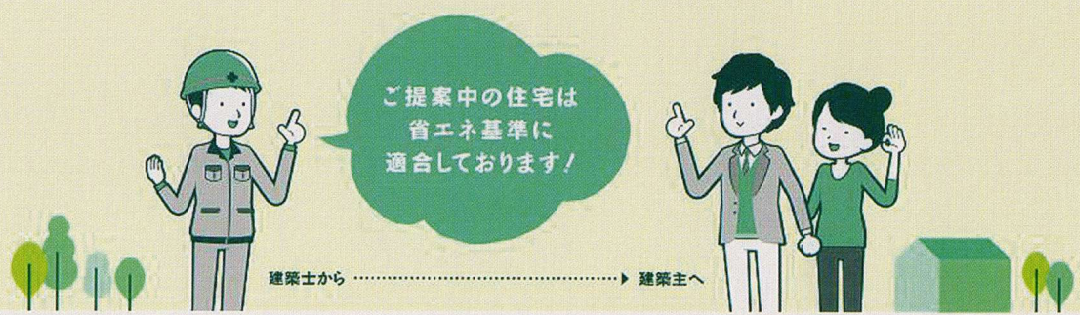
土木、舗装、解体、機械設備

別荘、保養所管理業務 等



令和3年4月から 省エネ性能の説明義務がスタート!

建築物省エネ法が改正され、建築士から建築主への省エネ性能の説明義務制度が令和3年4月から始まります。



ご提案中の住宅は
省エネ基準に
適合しております!

建築士から 建築主へ

対象	300㎡未満の原則全ての住宅・非住宅(戸建住宅や小規模店舗等が対象)
説明者	建築士が建築主に説明
説明内容	① 省エネ基準への適否 ② (省エネ基準に適合しない場合) 省エネ性能確保のための措置

※1 建築主が省エネ性能に関する説明を希望しない旨の意思を表明した場合は、説明されません。
※2 マンションや分譲戸建住宅の購入時や賃貸住宅の貸借時において売り主や仲介事業者に対して適用されるものではありません。

詳しくは、国土交通省のページにてご確認ください。 <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001377030.pdf>

***** ●編集後記● *****

長野県建築士会佐久支部情報広報委員会がweb会議で開催された。使用したのは「Zoom」でミーティング形式。会議参加とは名ばかりで、委員長・参加委員の足を引っ張っているばかり。新型コロナウイルスの所為にするわけではないが右往左往するばかり。そんな中で新春講演会「Withコロナ時代を生き抜く」と題して行われた「須田慎一郎」氏の講演の様子をネットで配信された。 荒井 央

令和3年度支部長決まる

去る2月25日、佐久グランドホテル於いて行なわれた臨時協議会で副支部長の菊池弘之さんが令和3年度支部長に選出されました。



新支部長の所信

先月25日臨時協議会において承認いただきました菊池弘之です。

来年度からの佐久支部の事業は、基本的に継続しながら、佐久支部の方向性・透明性を求めていきたいと考えております。

具体的には幹事会議事録のメール配信・佐久支部の基金の方向性・本会との収支の透明性・安全性確保後に、県外への視察研修を考えております。

活動が自粛方向の期間は、SNS等による講習会を考えております。微力ながら、皆様のご協力の元、更なる佐久支部を目指す考えです、宜しくお願い致します。

会報『ちくま』第64号 2021/4
 発行者：(公社)長野県建築士会 佐久支部
 情報広報委員会
 事務局：〒385-8533 佐久市跡部65-1
 佐久建設事務所内
 TEL 0267-63-8080
 FAX 0267-63-3330
 E-mail：ken8080@seagreen.ocn.ne.jp
 支部HP <http://www.aba-saku.com/>
 印刷：ヨダ印刷サービス株式会社
 TEL 0267-22-3330